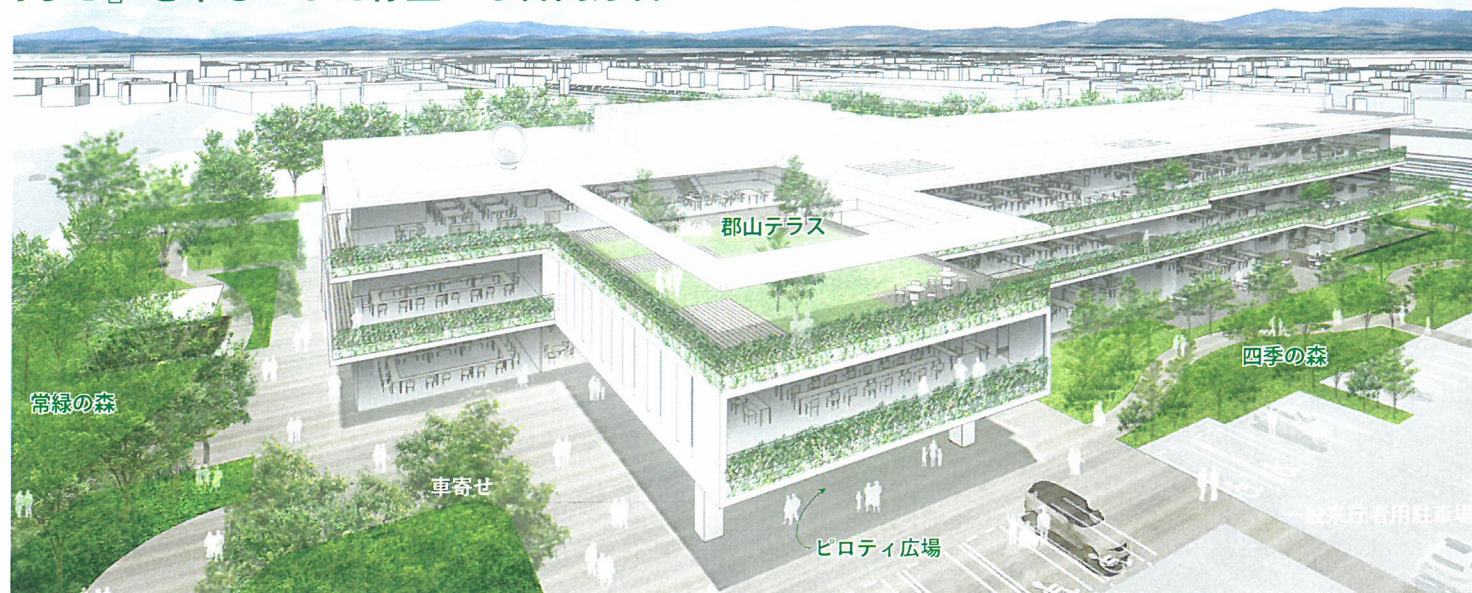
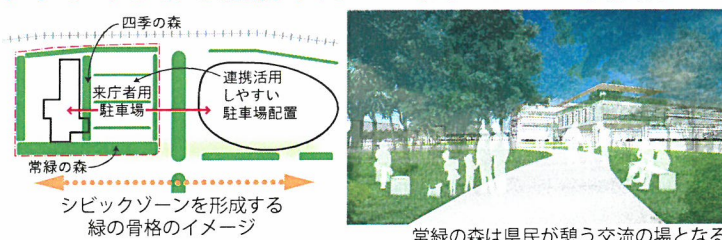


『ひと』を中心とした緑豊かな合同庁舎をつくる

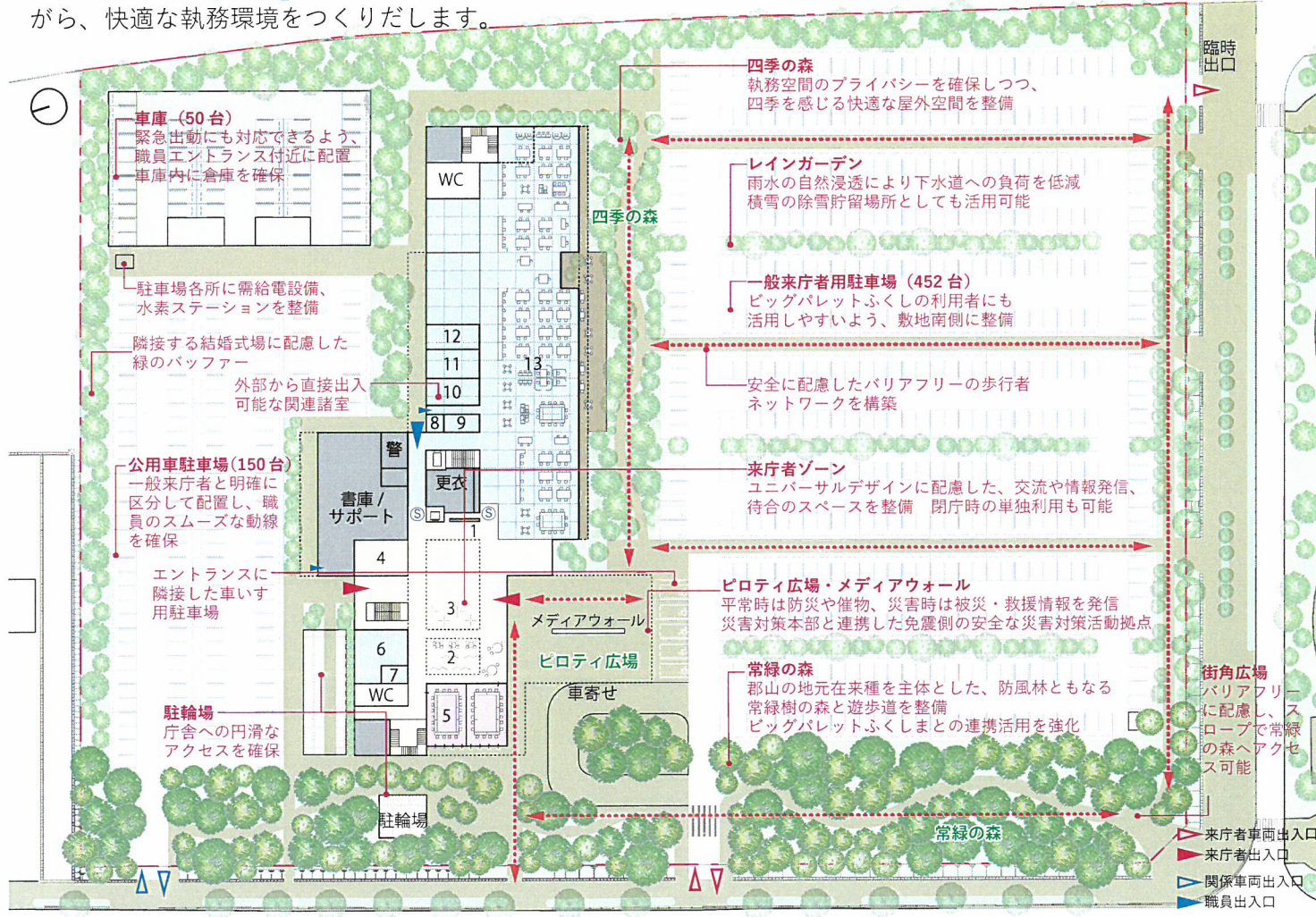


豊かな緑に包まれた合同庁舎によってビッグパレットふくしまと連携したシビックゾーンを形成

- 郡山市内には人々が集い憩う公園が多く点在します。郡山市の歴史を未来に引き継ぎ、地域の社会資産となる、自然豊かな公園のような合同庁舎をつくり、隣接施設と連携し、永く親しまれる県民のためのシビックゾーンを創出します。
- 敷地の西側道路に沿って西からの卓越風に対して防風林ともなる厚みのある『常緑の森』をつくり、ビッグパレットふくしまとの連携を強める緑の骨格を形成します。
- 庁舎南側に『四季の森』を設け、生物多様性に配慮しながら、快適な執務環境をつくりだします。

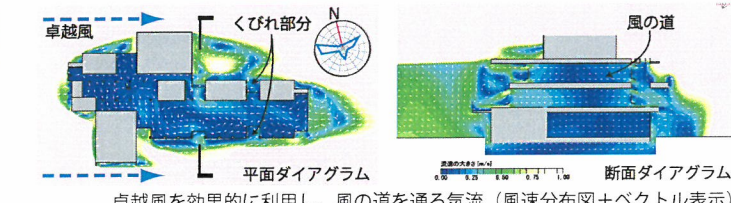


- 植栽は**管理が容易で維持費の少ない地元在来種**を中心に選定し、敷地内環境を快適にする**微気象**をつくりだします。



自然環境を活かした快適な執務空間

- 庁舎は東西外壁の短い施設配置とし、西日による外熱負荷を抑えた快適な執務環境を確保します。
- 自然エネルギーを積極的に活用します。くびれのある『風の道』を設けることで中間期の卓越風の誘引効果を利用し効果的に自然換気を行います。



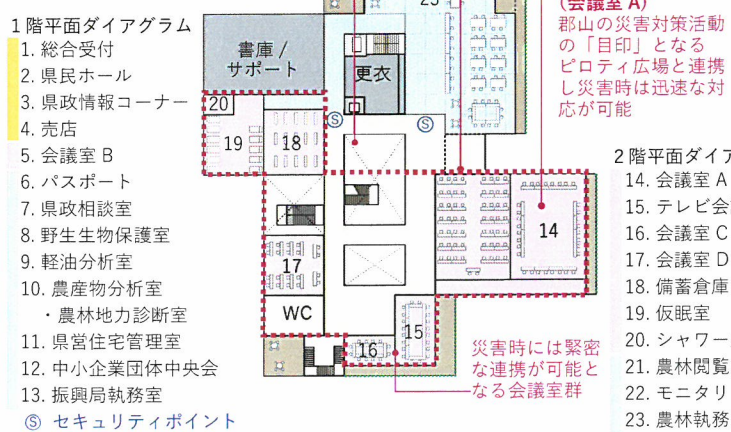
- 建物の各所に**多様な奥行きを持つテラス**を設けます。庇と屋外テラスの緑化フェンスにより南の直射日光を防ぎながら屋光利用を図り、明るい執務空間を実現します。
- 植栽のあるテラスにより執務空間のどこからでも緑を感じることが出来ます。季節に応じて使い分けられる南と北のテラスは、リフレッシュのための空間であると同時にネットワークを促します。職員の心身の健康を保ち、**知的生産性の向上**を図ります。



- 緑化フェンスには、**維持管理の容易な、強い汎用性のある樹種**を選定します。
- 執務ゾーンは、短スパンと長スパンのゾーニングにより、空間の大きさに合わせた様々な働き方を可能にします。
- 段差のない平面と**明快な空間構成**はバリアフリー庁舎の基本となります。多様な来庁者に分かりやすいサイン計画など**ソフトの観点からもバリアフリー化**を図ります。

- 危機管理機能ゾーン**
2階に危機管理機能の関連諸室を集約
日常的には来庁者ゾーンと一体となり、県民利用も可能な会議室群として機能
- 北側テラス**
日陰の屋外空間となり、夏季でも快適なリフレッシュ兼ネットワークの場として機能
職員の知的生産性の向上を実現
- 吹抜け**
上部に熱だまりと熱抜きを設け、自然エネルギーを利用した快適な室内環境を実現

- 執務関連ゾーン**
同一階に各機能の執務ゾーンを集約
ゆとりのある平面構成により、多様なレイアウトが可能
- サイン計画**
来庁者がスムーズなサービスを受けられるよう、明かな部署配置とわかりやすいサイン計画
- 災害対策本部(会議室A)**
郡山の災害対策活動の「目印」となるピロティ広場と連携し災害時は迅速な対応が可能



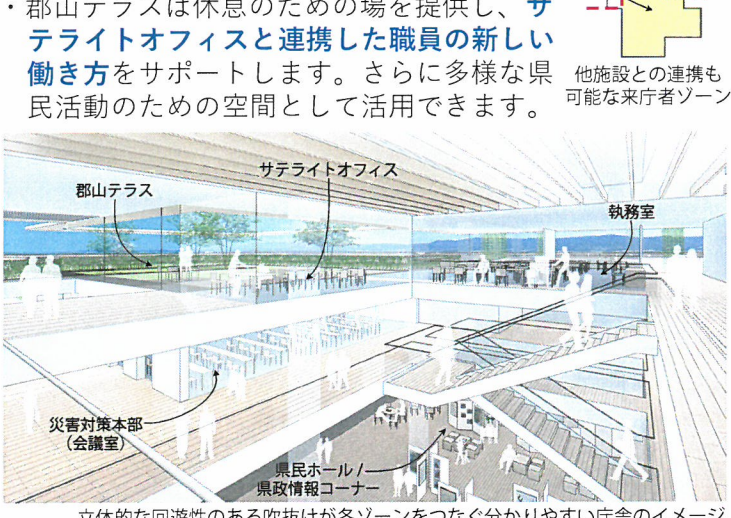
吹抜けを中心としたわかりやすく機能的な構成

- 各機能を同一階に収めることのできる平面形を確保し、使いやすい庁舎とします。3層に抑えた低層の庁舎は、人の動きと交流を促すとともに敷地周辺の街のスケールと調和した穏やかな景観を創り出します。

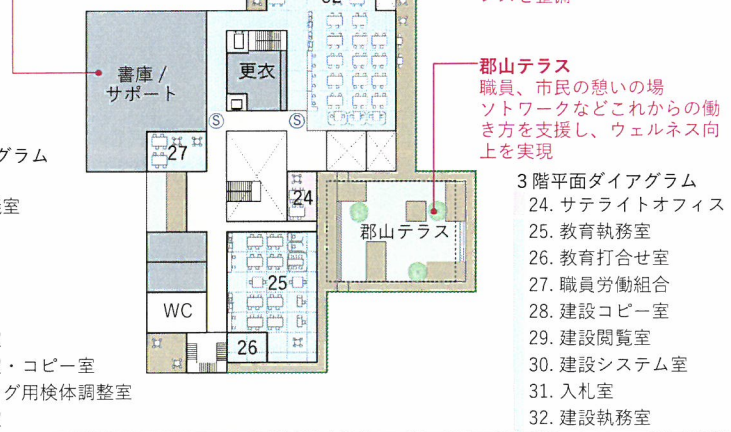
- 階段とEVが接続した**立体的な回遊性のある吹抜け**をエントランスに設け、その**四方に各機能ゾーンを配置**する明快な空間構成とします。吹抜けを通して各ゾーンを見渡すことができ、**はじめて訪れた方にも分かりやすく使いやすい庁舎**を実現します。

- 吹抜けは天窗から北の自然光が差し込む明るい空間であり、中間期には自然換気のための風の塔となります。
- 各階を緩やかな階段でつなぎ、**身体運動を促す健康的な庁舎**とします。回遊動線は『郡山テラス』につながります。

- 来庁者と職員の動線は明快に区分され、来庁者ゾーンは、セキュリティ区画によって、閉庁時の活用も可能です。
- 郡山テラスは休息のための場を提供し、**サテライトオフィスと連携した職員の新しい働き方**をサポートします。さらに多様な県民活動のための空間として活用できます。



- 東階段**
テラスに隣接する階段は、職員の円滑な移動を可能にし、身体活動を促進
- 南側テラス**
卓越風の誘引効果を利用した自然換気
職員の心身の健康を育む、メンテナンスが容易な緑化フェンスを整備
- 郡山テラス**
職員、市民の憩いの場
ネットワークなどこれからの働き方を支援し、ウェルネス向上を実現



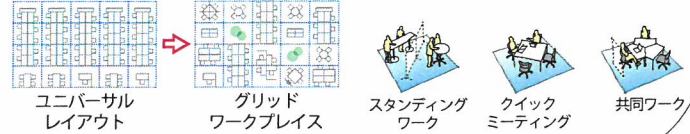
快適性を重視した執務環境の構築と情報技術導入の積極的な検討によって、『ひと』を中心に据えた Society5.0 の実現に貢献します

多様な働き方やウィズコロナ時代に対応したこれからの執務環境では、心身の健康を重視することが求められます。IoT/ICTを活用し、『ひと』を中心としてウェルビーイングに取り組み、脱炭素化などの課題解決を目指すフロンティアとして、この郡山合同庁舎を位置づけたいと考えます。

■心と身体の健康を重視したこれからの執務環境

多様なワーキングスタイルへの適応性

・余裕のある平面構成によって、フレキシブルな執務空間とします。各機能の特性に応じて窓口・待合スペースの拡張にも柔軟に対応できます。3.2mモジュールのグリッドワークプレイスは多様な働き方に柔軟に対応します。



自然風を室内に導く『風の道』と良質な空気環境

・「くびれ」に対応した風の道は、職員の交流やオンライン会議の増加に対応するとともに、スタンディングデスクなどの設えによって職員の健康増進を図ります。開閉窓によって各個人が換気を行い、自然を身近に感じることのできる空間とします。オンオフの切り替えが容易な執務環境は、多様な働き方を支え知的生産性を向上させ、行政事務効率化につながります。十分な換気性能は、感染症拡大防止に貢献します。

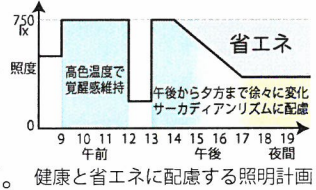
身体活動を促す施設計画

・階段に隣接してテラスや吹抜けを設け、積極的に階段を使いたくなるような計画とします。この空間により庁内交流を促し、将来の部局構成の変化にも柔軟に対応します。



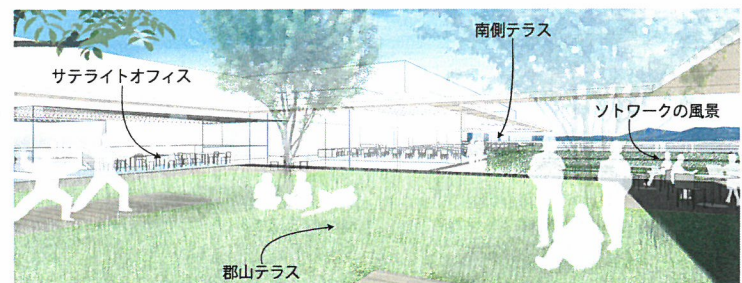
知的生産性に配慮した光環境

・昼光利用とタスクアンビエント照明により、省エネに配慮しながら個人に合わせた光環境とします。サーカディアンリズムにより、職員の健康に配慮します。



開放性と心地よさをもたらす屋内外のつながり

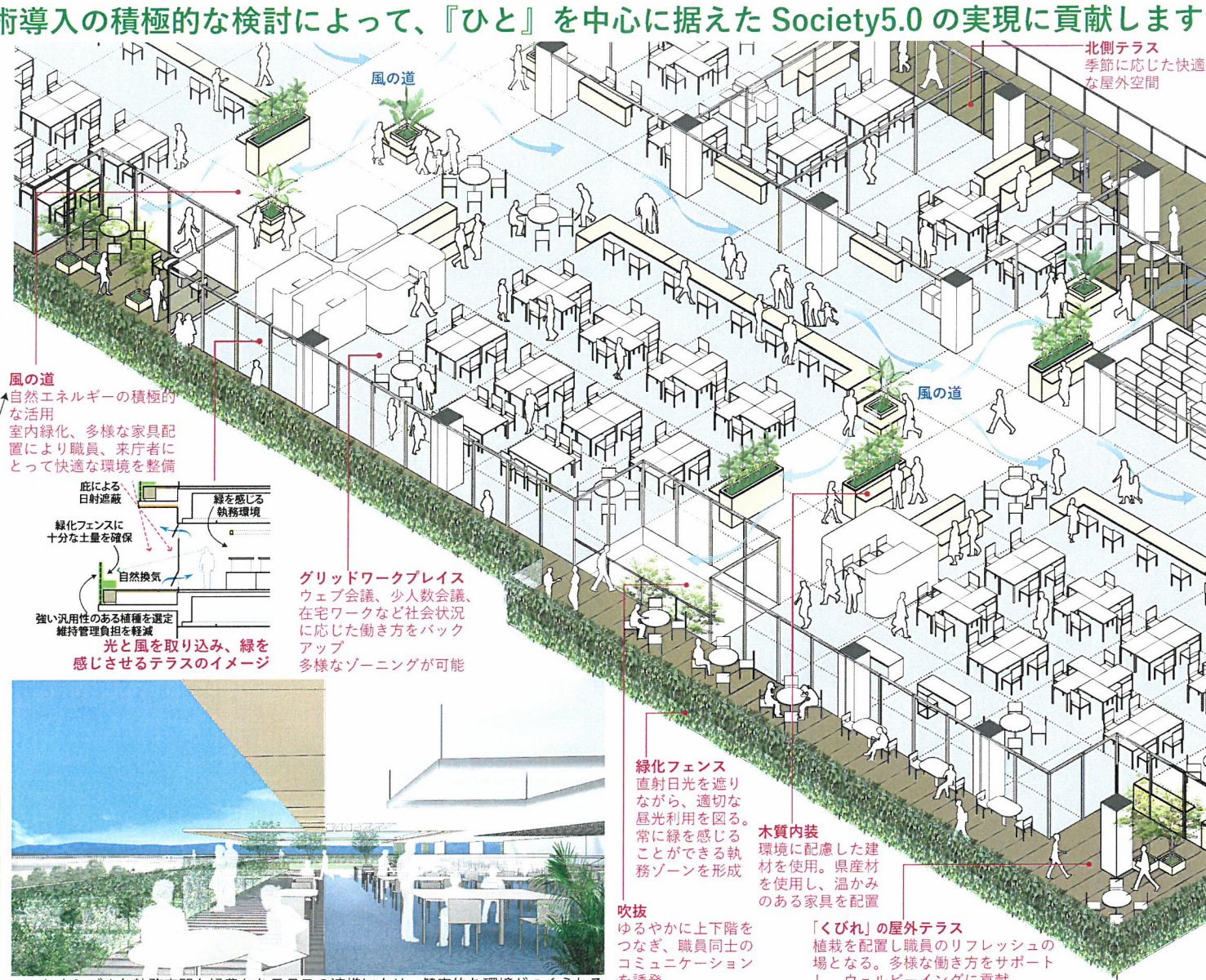
・郡山テラスに面して設けられたサテライトオフィスは、県内の様々な施設からの来庁者のための執務空間であるとともに県民の利用も可能とし、新しい働き方のための空間として、緑豊かな屋上庭園と連携して活用できます。



郡山テラスなどの屋内外の多様な空間によって心身の健康をもたらす合同庁舎のイメージ

ICTを活用したウェルネス最適制御

・各種センサーに加え、庁内Wi-Fiとスマートフォンによる人員密度情報等を活用した効果的な空調・換気制御導入を検討します。更なる省エネ化、感染症対策に適した安全な空気環境の確立に効果が期待されます。



風の道 自然エネルギーの積極的な活用 室内緑化、多様な家具配置により職員、来庁者にとって快適な環境を整備

底による日射遮蔽 緑を感じる執務環境 緑化フェンスに十分な土量確保 自然換気 強い汎用性のある種を選定 維持管理負担を軽減 光と風を取り込み、緑を感じさせるテラスのイメージ

グリッドワークプレイス ウェブ会議、少人数会議、在宅ワークなど社会状況に応じた働き方をバックアップ 多様なゾーニングが可能

緑化フェンス 直射日光を遮りながら、適切な昼光利用を図る。常に緑を感じる事ができる執務ゾーンを形成

木質内装 環境に配慮した建材を使用。県産材を使用し、温かみのある家具を配置

吹抜 ゆるやかに上下階をつなぎ、職員同士のコミュニケーションを誘発

「くびれ」の屋外テラス 植栽を配置し職員のリフレッシュの場となる。多様な働き方をサポートし、ウェルビーイングに貢献

フレキシブルな執務空間と緑豊かなテラスの連携により、健康的な環境がつけられる ■防災拠点施設として安全な庁舎とし、それを施設の顔とすることで県民の防災意識の啓発に貢献する

空間のフレキシビリティを実現する安全な構造システム

・基礎免震と堅牢なRC造による安全な低層庁舎とします。効果の異なる積層ゴム支承と粘性系ダンパーの併用で、性能を相互に補完する免震構造とします。変形が小さいRC造は、什器が転倒しにくい床加速度に抑えます。長スパンはポストテンション工法によるプレストレス構造とします。免震装置と杭の減少でコストを抑えつつ、長周期化によって地震に対する安全性を高めます。

災害対応・危機管理機能性の重視

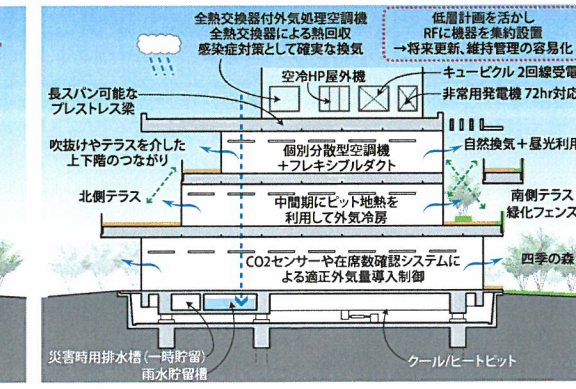
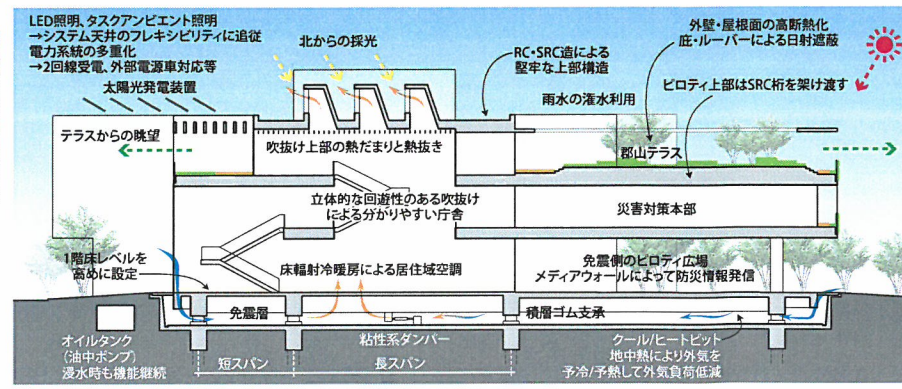
・危機管理機能ゾーンを2階に集約することで、迅速な災害対応業務が可能となります。車寄せに張り出す危機管

理ゾーンの下に雨掛りの無い免震側の『ピロティ広場』が創られます。

ここは災害時の防災活動スペースとして活用でき、日常的には季節や天気を問わず県民を対象とした様々なイベントに利用され、メディアウォールによって防災意識を啓発する情報の発信も可能にします。

重要設備のレジリエンス向上

・主要な設備機械室は上階に配置し、災害時にも庁舎機能



■シンプルシステムによりLCCを抑えたサステナブルな庁舎を実現する

外熱負荷の低減と自然エネルギーの活用

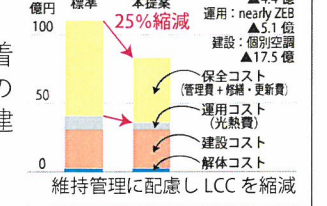
- ・自然の光と風、豊かな緑を活かし、高断熱の外皮による外熱負荷低減や庇による日射遮蔽など、建築的手法によって機械に頼りすぎない心と身体両面から健康的で居心地の良い庁舎とします。
- ・外気導入は免震ピットを介することで、地中熱による予冷/予熱を行い、外気負荷を低減します。
- ・雨水貯留槽を設け、植栽の灌水、中水などに利用します。
- ・書庫ゾーンの屋根には太陽光発電を設置し、蓄電池の設置による災害時の電力有効活用も検討します。

シンプルで高効率な設備システム

- ・自然換気を組み入れたハイブリッド空調 外気導入は自然換気+外調機にて、さらに外調機系にはCO2や人員制御を付加し、確実な換気量確保と省エネ性を両立します。
- ・執務空間の空調は、シンプルな汎用パッケージ空調機を採用し、維持管理や更新性を高めます。

容易な維持管理と将来の機器更新

- ・搬入用エレベーターを屋上階に着床させ、日常の維持管理と将来の機器更新を容易にします。低層建築は大型機器の更新も容易化し、LCCの縮減につながります。



一災害時における業務継続性の確保

の継続が可能となる安心な施設とします。1階レベルを周囲よりも高く設定することによって、近年ますます増加している集中豪雨による浸水対策にも配慮します。

・駐車場には雨水を集めて浸透させるレインガーデンを整備し、湿地に適した植栽を植えます。周辺インフラへの雨水流出の抑制や除雪堆積地としての利用など、周辺環境への負荷を抑えた庁舎とします。

・屋外空間にはかまどベンチやマンホールトイレを整備し、関係機関が円滑に災害対応活動を行えるだけでなく、ビッグバレットふくしまの指定避難所機能を補強します。

災害時にも安心な合同庁舎に相応しいBCPを確立します

被被災後の復旧タイムラインとBCP計画	被災・初期期	展開期	安定期	復旧期	
種類	被災発生直後	発生～3日間	3日～1週間	数週間	数ヶ月
電源	2回線受電	被災リスクを抑え、インフラ正常時は通常運用	復旧		
通信	異ルート二系統引込	被災リスク抑止+無線系通信手段の確立	復旧		
空調	電気式個別空調	危機管理機能・一時避難エリアでの継続運転+自然換気	電源インフラと共に復旧		
飲料水	受水槽+緊急遮断弁	受水槽(7日分)+給水管直圧給水(インフラ正常時)	給水車	復旧	
便所	雨水利用(独立系統確保)	雨水貯留槽(7日分雑用水)+汚水槽(7日対応)	給水車+汚水搬出	復旧	
災害支援対策	備蓄倉庫・屋外スペース	災害時開放エリア設定	稼働		各機能復旧に併せ復旧